

平成26年度は通所(デイサービス)部門が、施設間の厳しい競争の環境下にも拘らず実績を伸ばしました。一方でこれまで着実に実績を伸ばしてきた、短期入所(ショートステイ)部門が苦戦を続けました。通所部門は佐久・上田・千曲の3事業所計で昨年比で合計1,928名の利用者を増やしましたが、短期入所部門は佐久・千曲の2事業所計で昨年比で合計934名の利用者減となりました。

2025年を見据え特別養護老人ホームや老人保健施設が増えつつあり、そこには短期入所も併設されている事もあり、単独施設の短期入所は厳しい状況にあります。ヘルパーステーションから特別養護老人ホームまでの施設を運営する介護業務の広範さ、今までに培ったノウハウ、佐久市から千曲市までの地域の広域性を活かしての利用者拡大が、平成27年度の短期入所の課題になります。

岩手県のリアス倶楽部は、特別養護老人ホームと短期入所が共に高い稼働率を維持しており、地域の福祉拠点として大きな役割を継続して果たしています。

2月1日に開所しました「さんえいコモンズ小諸」は、経過日数も少ない事から評価は今後となりますが、平成27年度末には稼働率を68%にする事を目標に、順調に利用者数を増加させています。

特筆すべき事業所の状況は以下のとおりです。

【ケアハウス佐久だいら】

生活は自立しているが加齢により援助が必要な利用者が増えてきました。食事時の転倒防止と他の利用者への事故防止のため、平成27年1月より毎食時に介護保険使用でヘルパーによる配下膳を実施しており、10名の入居者がサービスを利用しています。

施設面では、福祉空間整備補助金の交付を受け、スプリンクラーの設置工事をおこない、平成27年2月10日に完成・引渡しを受け、万一の失火に備え利用者の安心・安全を確保しています。

(総事業費:35,928千円・税込み)

【佐久だいらデイサービスセンター】

すべての月において利用者数が前年を上回り、前年比で606名の利用者増となりました。土曜・日曜のイベントは利用者様およびケアマネ殿にも好評で、毎回多くの利用者を集めています。利用者増加にともない、平成26年8月より定員を5名増やし35名としました。

【ショートステイ佐久だいら】

冬期の1月と3月以外は利用者数が減となり、前年比で669人減となりました。前年と比べ5月から11月までの減少幅が多く、利用者確保に向けての積極的な広報活動が必要です。

【諏訪形デイサービスセンター】

他の施設で利用をお断りされた利用者の受入れもおこなっており、受入れ後の利用者の状況もケアマネ殿の想定より格段に良い事から、施設の介護について高い評価を頂けるようになり、他の利用者の紹介も頂いており実績は前年比で65名の利用者増ですが、平成27年度は更に利用者数を伸ばせる状況です。

【千曲デイサービスセンター】

開所3年目で稼働率も72.3%と伸び、利用者数も前年比1,257名増になりました。利用者数が定員一杯の20名の日もあるので定員増を検討中です。施設としては30名まで定員増が可能です。千曲地域の特徴として日曜日の利用者が極端に少ない状況があり、佐久地域の様に日曜日の集客を増やす事が今後の鍵になります。

【ショートステイ千曲】

年間稼働率が93%と高い稼働率を維持していますが、利用者数は前年比で265名減となっています。食費・居住費の消費税分の値上げがあったため事業収入は前年より増となっていますが、利用者確保に向けての積極的な取組みが必要です。

【特別養護老人ホーム リアス倶楽部】

利用者数は前年比で微増ですが、夜勤時の体制強化による加算により、事業収入が前年比で約660万円増えました。

助成による福祉車両の配備について

- ・ショートステイ佐久だいら:公益財団法人 JKA殿 より助成を受け、リフト付車いす仕様車のトヨタ・ハイエース(車いす2台搭載・10人乗り)を10月配備しました。
- ・ショートステイ千曲:日本財団殿 より助成を受け、リフト付車いす仕様車の日産・キャラバン(車いす2台搭載・10人乗り)を3月配備しました。

以上